

全ての人に人権を

「お腹いっぱいだから、残してもいい?。」食事中、私が何気なく発した言葉です。その日は夕食の前に、お菓子をたくさん食べていて、どうしてもご飯が食べ切れそうになかったのです。その言葉を聞いた母は私に、

「幸せ者だね。」

と言いました。てっきり怒られると思っていた私は、静かに言葉を発した母に驚くと同時に、何故「幸せ」なのか、疑問を抱きました。そこで私は、自分の生活と比較するため、世界の人々の生活を調べてみることにしました。

現在、地球上では一分間に十七人もの人が、貧困の影響で亡くなっているそうです。世界の貧困問題のうち、約四十パーセントはアフリカで発生しており、ご飯を何日も食べることができなかつたり、安全に住める家がなかつたりと、苦しい生活を強いられています。特に、「イラク」では、貧困を経験している子どもの四人に一人は「紛争」の影響を受けており、紛争の前線で戦闘に参加させられていること、また、紛争によって深刻な暴力を受けている子どもが四百万人以上いることがユニセフの調査で明らかになりました。同じ、「子ども」という立場なのに、人権が軽視されることによって命が簡単に奪われてしまうアフリカの現状を知った時、自分が情けなくなりました。私は、当たり前のように学校に行き、教育を受けられています。毎日三食、温かいご飯を食べられています。本来、この有難く、恵まれた環境に感謝しなければならないのに、今の生活に文句を言っている自分がいたからです。

ここでようやく、母の言っていたあの言葉は、「貧困でご飯を食べられない人もいるのに、よく食べ物を粗末にできるね。」という意味であったのだと気づきました。アフリカの子ども達は、学校にも行かず、何十キロもの距離を往復し、やっとの思いで水や食料を手に入れています。しかし、この水は不衛生で、感染症に陥り亡くなることもあるそうです。画面越しに、貧困に苦しむ彼らを見たとき、大きな衝撃を受けました。何も食べることができなかつたのか、骨が浮き出ている男の子。薬がなく、病気に苦しむ人々。今この時も命が失われているのだと思うと、目頭が熱くなりました。同時に、過酷な境遇で必死に生きている人を見下し、「汚い」や「ありえない」などと馬鹿にしたり、差別したりすることは決してあってはならないと改めて思いました。こうして、貧困は、人々から仕事を奪う権利、教育を受ける権利、幸福を追求する権利をも奪っていきます。私はいてもたってもいられなくなり、「一刻もはやくあの子たちを助けなきゃ」と思い

ました。しかし、学生ひとりができることなど、たかが知れていたのです。

では、どうしたら貧困による人権侵害を解決できるのでしょうか。私が出した答えは、「多くの人が貧困や人権を知り、異なる立場を理解する」ということです。私が思うに、今の人々には知識が足りていないと思います。私も、人権作文を書いていなければ、人権がこんなにも尊く、大切なものだとは知らなかったことと思います。「異なる人の立場を理解する。」と聞くと難しいイメージを持ってしまいがちですが、異なる人々の伝統や生活、思いを知っていけば、自然とその人達の立場になって考えることができるのではないのでしょうか。また、一人が千人、一万人…分の人の理解や行動をするより、千人、一万人…の中の一人一人が人権問題に関わり、協力することが差別のない世界への近道になると思います。

先程も述べたように、私は学生です。多額のお金を稼ぐことも、一人で貧困に苦しむ人々を助けることもできません。ですが、限られた中でもできることはあります。例えば、自分が着れなくなった服や靴を寄付する。人権について学校でスピーチをして訴えてみる。ボランティアに参加する…など、むしろ学生にしかできないことがたくさんあるではないですか！私はこうした活動に積極的に参加し、周りの人に活動の良さや大切さを広めていきたいです。そして、ボランティア活動に参加する人を一人でも多く増やしたいと思います。

「人権」それは、誰もが生まれながらにして持っている、幸せに生きることができる権利のことです。平等に与えられているはずなのに、実際は不平等な現実が平等に与えられています。あなたは、貧困や人権侵害といった現実を他人事と捉えていませんか？自分の価値観を他人に押しつけていませんか？ものを粗末にしていませんか？そして、まわりの環境に感謝して生きていますか？一度、自分の心に問いかけてみてほしいです。

そして、自分には何ができるかを考え、ともに行動していきましょう。

—全ての人が幸せに暮らせる未来のために。